

徳川林政史研究所蔵 石河家文書目録(十二)



## 凡例

- 一 本目録は、徳川林政史研究所が所蔵する「石河家文書」について収録したものである。石河家は、尾張藩の年寄役を代々つとめた家柄で、石川光忠が慶長一三年(一六〇八)に徳川家康の命により駿府へ出仕したのをはじめとして、同一五年には美濃・摂津両国内において新知一万石を与えられ、同一七年には初代尾張藩主徳川義直(家康九男)の付属に転じた。光忠の嫡子正光は、承応元年(一六五二)に初めて尾張藩の年寄役に列し、以後歴代にわたって年寄役に就任している。なお、石河家では、当初「石川」の字を用いていたが、享保一七年(一七三二)九月、旧に復して「石河」と記すようになった。当研究所の保管書類である「研究室事務報告(二) 自昭和十年一月至十四年十二月」によると、本史料群は、昭和一〇年(一九三五)に名古屋より東京へ移送されたとあり、同時期に石河家より寄贈されたことが知られる。またその他、昭和四二年(一九六七)には、木箱入りの石河家文書一箱を古書店から購入した旨の記録が残されており、戦前期の寄贈分と戦後の購入分とが混在する形をとっている。
- 一 本目録は「石河家文書目録(十一)」として、前号の続きとなる、史料番号三三五六一―三三九七―七―一二までを収録した。なお、本目録は、文書点数が非常に多いことや紙幅の関係などから、一度に収録することは困難であるため、複数回に分けて掲載していくことにする。
- 一 本目録では、各史料について、①番号、②表題、③年月日、④差出(または作成者)↓宛所、⑤形態、⑥数量、⑦備考の七項目を採録した。

- 一 番号は、原則として過去に当研究所において付された番号を利用したが、一部については、今回の整理・目録化作業にあたり、出納・管理の便宜を考慮して新たに番号を付与したものがあある。なお、史料の配列や出納の都合上、欠番号はそのままにしてある。
- 一 表題は、原則として原表題を記し、必要なものについては適宜( )を付して内容を補記した。また、戦前期に当研究所において製本され、新たな表題が付けられたものについては、「」を付けて示すことにした。典籍の場合は、原則として内題(巻頭題)を採用し、外題を「」付きで直後に示すことにした(ただし、内題と外題が同じものに関しては「」の表記は省略した)。
- 一 年月日は、原則として史料に記載されている年月日(内容年)を示すことにし、目録作成時に推定した部分については( )を付けて適宜表記した。また、年次記載がないもの、おおまかな作成年代がわかる場合には(寛政)(寛政以降)(寛政文化)あるいは(江戸)(明治)などと( )を付けて該当する年号や時期を示すことにし、推定不能の場合には(年未詳)とした。
- 一 差出(または作成者)↓宛所は、差出人または作成者を矢印の前の部分に示し、宛所となっている人名を矢印の先の部分に置いた。差出人や宛所が複数からなる場合には、初筆の者または内容から判断して最適切な人名を一名掲出し、このほかについては「他〇名」と略記した場合もある。また典籍の場合には、著者・编者・版元などを採録し、「」(著)、「」(編)、「」(版)などと表記することにした。
- 一 形態については、縦(縦帳)・横(横長帳)・横半(横半帳)・状(切紙・続紙・折紙)・鋪(絵図)・綴(作成契機の異なる複数の史料を綴ったも

の)・帖(折本)などと示した。小型本については、「横・小」「縦・小」などと表記した。また、戦前期に当研究所において複数の史料を合綴して製本したものに關しては、特に「縦綴」「横綴」などと表記した。

一 数量は、出納・閲覧の便宜を考慮し、後年の改装により、分冊あるいは合綴されたことが明らかな場合でも、現在保存されている状態での点数を採用した。

一 備考には、史料の概略や史料の中に挟み込まれている書状・書付、および綴じ込まれた文書の有無、欠本・合綴・改装の状態など、必要と思われる事柄を\*印を付けて適宜表記した。

一 本史料群には、戦前期に当研究所において複数の史料をまとめて製本した合綴史料が数多くみられる。これらについては、その細目を丸番号を付けて列挙することにした(ただし、丸番号は収録順序を示す目安に過ぎず、細目に該当する個々の史料に実際に番号が付されているわけではない)。なお、細目の各項目における配列は、表題、年月日、差出(または作成者)↓宛所、備考の順とし、それぞれを二字アキで示したが(細目の備考については、冒頭に※印を付した)、該当する項目に關する記載がない場合には、省略して表記している。

一 本目録は、平成一四年度〜同二〇年度に行つた研究員・非常勤研究員・研究生による夏季・冬季集中史料整理の成果の一部である。調査参加者は、太田尚宏(主任研究員・当時)・白根孝胤(研究員・当時)、石山秀和・浦井祥子・栗原健一・坂本達彦・渋谷葉子・清水聡・滝口正哉・田原昇・西光三・藤田英昭・宮原一郎(以上、非常勤研究員・当時)、上野恵・小宮山敏和・高橋伸拓・根岸美季・松本劍志郎・山崎久登・吉成香澄・倉持隆・中村佳史(以上、研究生・当時)の二二名であ

る。なお、採録された整理カードの内容点検と原稿化作業は、塚田沙也加(非常勤研究生)の協力のもと、高田綾子(同)と藤田英昭が担当した。

【参考】 石河家歴代当主の略歴(尾張家付属から明治三年まで)

初代 光 忠 「市正・太八郎 初名 太郎八」

慶長一三年冬

家康の命により一五歳のときに駿府へ出仕

慶長一五年一〇月一二日

美濃

・摂津両国内に新知一万石を与えられる

慶長一七年

尾張藩初代藩主徳川義直に付属する

寛永五年九月一九日

死去 法名は大雄院玄信

二代 正 光 「伊賀・太郎八 初名 加助」

寛永五年

家督を相続する

寛永一九年

寄合触流となる

承応元年九月

年寄役となる

寛文四年六月一二日

御役御免となる

寛文一一年九月一〇日

死去(五七歳) 法名は蓮華院

三代 章 長 「隠岐守 伊賀・伊賀守・大和守・出羽守・佐渡守・大和守 初名 七郎左衛門 隠居名 章長」

万治元年

初めて藩主に御目見をする

寛文一一年一〇月

家督を相続し、大寄合に属する

寛文一二年四月一五日

伊賀と改名する

延宝三年三月二六日 年寄役となる

延宝五年閏一二月二八日 従五位下伊賀守に叙任される

貞享元年一二月二五日 大和守に改める

貞享二年六月二三日 出羽守に改める

元禄元年一二月六日 佐渡守に改める

元禄三年一二月四日 大和守に改める

元禄一二年一二月一三日 隠岐守に改める

宝永三年二月九日 隠居し、章長と名乗る

宝永五年五月四日 死去(六〇歳) 法名は章長院

四代 正章 「出羽守 太八郎・靱負・大炊 初名幸七郎 隠居名

愚翁」

元禄七年一〇月四日 初めて藩主に御目見をする

元禄一三年一二月二二日 靱負と改名する

宝永三年二月九日 家督を相続し、大寄合に属する

宝永三年三月二五日 年寄役となる

宝永四年正月 大炊と改名する

享保四年一二月二一日 従五位下出羽守に叙任される

享保一六年六月一五日 隠居

享保一六年八月 愚翁と名乗る

宝暦三年七月二八日 死去(七〇歳) 法名は清静院

五代 忠喜 「伊賀・太八郎・隠岐 初名七太郎」

享保四年九月二二日 初めて藩主に御目見をする

享保七年二月二〇日 太八郎と改名する

享保八年二月 隠岐と改名する

享保一七年六月一五日 家督を相続する

享保一七年九月 「石川」を「石河」と改め、伊賀と改名する

享保一八年六月二二日 死去(二八歳) 法名は真源院

六代 光當 「伊賀守 雅楽・伊賀 初名千次郎」 実は出羽守正章

の二男

享保六年四月二二日 石川兵庫の名跡を継ぎ、普請組寄合となる

享保一六年四月二九日 御書院番頭となる

享保一六年九月一九日 御用人となる

享保一八年八月二二日 兄伊賀(忠喜)の名跡を継ぐ

享保一九年二月 伊賀と改名する

元文四年八月六日 年寄役となる

元文五年一二月二一日 従五位下伊賀守に叙任される

安永二年七月二三日 死去(六一歳) 法名は徳源院

七代 光籌 「伊賀守 太八郎・一学 初名銀次郎」 実は伊賀守光當

の四男

寛延元年一〇月二五日 石河三藏の名跡を継ぐ

明和五年二月一五日 父伊賀守光當の内願により嫡子となる

明和五年三月一日 太八郎と改名する

明和八年八月五日 御側同心頭御用見習となる

明和八年一〇月二六日 御側同心頭となる

安永二年九月一四日 父伊賀守の遺跡を継ぐ

安永二年一〇月一日 年寄役となる

安永二年一二月二八日 従五位下伊賀守に叙任される

文化二年七月一七日 御用方ならびに加判御免となる

文化六年四月二〇日 死去(六四歳) 法名は乾龍院

光 豊 「太郎八 初名初次郎」 実は太郎八光堅(賢)の嫡子

安永九年正月一五日 伊賀守光籌の養子となる

天明元年正月二三日 太郎八と改名する

享和二年八月二四日 御側大寄合御用見習となる

享和三年五月一二日 死去(四〇歳) 法名は縁樹院

八代 光 茂 「出羽守 太八郎・伊賀守 初名幸七郎」 実は太郎八

光豊の嫡子

文化三年二月九日 祖父伊賀守光籌の願いにより嫡孫承祖が認められる

文化六年六月一〇日 伊賀守光籌の遺跡を継ぎ、諸事光籌の通り務めるべき旨を仰せつけられる

文化九年二月一日 加判(年寄役)となる

文化一二年九月一日 加判御免となる

文化一四年一二月二四日 加判となる(再勤)

弘化三年一二月二二日 従五位下伊賀守に叙任される

嘉永元年一〇月二四日 出羽守に改める

嘉永六年六月二九日 隠居

慶応三年 死去

九代 光 晃 「太八郎・佐渡守・佐渡・太八郎 初名孟二郎」

嘉永六年六月二九日 家督を相続する

嘉永六年九月二八日 加判となる

嘉永六年一〇月二日 太八郎と改名する

安政四年一二月二二日 従五位下佐渡守に叙任される

明治元年一二月二四日 官位返上により、佐渡と名乗る

明治二年正月一五日 刑事知事を仰せつけられる

明治三年九月 明治政府より笠松県貫属を仰せつけられる

〔系譜〕〔石河家文書一〇二二〕および「藩士名寄」「士林派涸」による

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五六一 (御屋敷勤方等二付心得)

(年未詳)卯九月

↓御目付江

状一

\*紙継ぎはがれ。

三五六二 (石河孟二郎儀公儀江御目見并献上物為仕度旨書状)

(江戸)

御名(石河光茂)

状一

\*孟二郎は九代光晃の初名。三五六一～三五六二の紙継りとも。紙継ぎはがれ。

三五六三 (津田太郎左衛門内々申聞候趣書取)

(江戸)

状一

\*紙継ぎはがれ。

三五六四 (万石衆江戸ニ而大紋着用之節伺聞洛ニ付書状)

(江戸)一二月

状一

三五六五 (孟二郎初而御目見ニ付袋入傘等私同様仕度旨願書写)

(江戸)三月

御名(石河光茂)

状一

\*紙継ぎはがれ。端裏に「写」と記載。文末に朱書で「料紙杉原半切上包半紙上下折かけ上ニ書付ト認」と記載されている。

三五六六 (殿様・御隠居様御供人数ニ付書付)

(享保二)～(安永二年)

状一

\*紙継ぎはがれ。

三五六七 亥年迄平生御出御供調

(江戸)二月

御徒目付

状一

\*紙継ぎはがれ。

三五六八 (文化二丑年二月三日幸七郎様御忍御駕籠ニ而熱田御参詣御供調)

文化二年二月三日

状一

\*幸七郎は八代光茂の初名。紙継ぎはがれ。

三五六九 (御前・孟二郎様他六名九星生年等書上)

(江戸)

状一

三五七〇 (於弘様・於益様他御袖留年月日等書上)

(江戸)

状一

\*紙継ぎはがれ。

三五七一 (来々子年迄三ヶ年歳敷儉約被仰出旨書付)

(天保九年)四月

状一

\*紙継ぎはがれ。端裏に「水野越前守殿より御城附江被相渡候書付写」と記載されている。

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五六三 御他所御供立

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五六三 (京地堂上・地下等へ礼節振御改革ニ付仰達書写)

(江戸)四月八日

御目付

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五六四 (石河光茂年譜)

(文化二)文政元年

状 一

\*紙継ぎはがれ。破損甚大。

三五六五 (紀州三浦将監方々在所住居之儀問合ニ付返答書付案)

(文政元年)

(留守居天野喜六)

状 一

\*紙継ぎはがれ。端裏に「紀州三浦将監方々在所住居之儀江戸留守居今此方留守居迄問合被申越候付、此趣留守居天野喜六返答為申遣候書付下」と記載されている。

三五六六 覚(大小刀拵書上)

(江戸)

状 一

三五六七 (御省略筋出精ニ付御加増知被仰出書)

(文政八年二月三日)

↓杉山作左衛門

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五六八 (作事等ニ付覚)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五六九 記(作事入用ニ付)

(江戸)申七月

状 一

\*虫損大。

三五七〇 (玄信様御牌前江御参詣御備物)

享保五年正月一八日

状 一

\*玄信は初代光忠の法名。

三五七三 (御供ニ而罷登候輩其外名前書上)

(江戸)

状 一

\*三五七二、三五七三を括っていた紙継りとも。紙継ぎはがれ。

三五七三 (御供ニ而罷登候輩其外名前書上)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五七三 (孟二郎様へ於竹様江御結納御祝儀被進旨申達書状案) (江戸)四月二日 瀬兵衛 状

\*孟二郎は九代光晃の初名。紙継ぎはがれ。

三五七一 (別冊武鑑御加入ニ付御留守居申参候御報下案) (文政三年カ 辰二月二日) 状

\*三五七二～三五七五を括っていた紙継りとも。紙継ぎはがれ。端裏に「辰十二月十一日下ス武鑑一件ニ付渡辺様御留守居申参候御報下等」と記載されている。

三五七二 (別冊武鑑御加入ニ付書状) (文化・文政) 森弥一郎 他一名 状

二月六日 ↓石河小二郎様 他二名

\*紙継ぎはがれ。

三五七三 (別冊武鑑御加入ニ付書状) (文化・文政) 天野喜六 状

二月二日 ↓石河小二郎様 他二名

\*紙継ぎはがれ。「追啓」あり。

三五七四 (別冊武鑑御加入ニ付書状) (文化・文政) 二月二日 状

\*紙継ぎはがれ。端裏に「十二月廿一日下ス武鑑之儀ニ付小塚・森商人止宿ニ遣候下案」と記載されている。

三五七五 (別冊武鑑出板之儀ニ付返報) (文化一四年カ) 側見亘理↓杉山作左衛門殿 他三名 状

丑一〇月二六日

三五七六 (武鑑下調出来ニ付返報) (文化一四年カ) 側見亘理↓杉山作左衛門殿 他三名 状

丑九月二日

\*紙継ぎはがれ。

三五七七 (別冊武鑑出板ニ付御伺之返報) (文化一四年カ) 側見亘理↓杉山作左衛門殿 他三名 状

丑四月六日

三五七八 (武鑑彫刻調之儀ニ付返報) (文化・文政) 側見亘理↓杉山作左衛門殿 他三名 状

一〇月六日

三五七九 (先達而申進候武鑑一件ニ付返報) (文政元年カ) 側見亘理↓杉山作左衛門殿 他三名 状

寅七月二日

番号表 題

番号	題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
三五七〇	(武鑑一件ニ付近々出版相成筈之旨書状) *紙継ぎはがれ。	(文化・文政) 八月二十六日	側見亘理↓杉山作左衛門殿 他三名	状 一
三五七一	(武鑑御加入取組候ニ付書状)	(文政二年) 卯五月二日	天野民藏↓石河小二郎殿 他三名	状 一
三五七二	(武鑑御加入御指止ニ付書状) *紙継ぎはがれ。	(文政二年) 卯閏四月六日	天野民藏↓石河小二郎殿 他三名	状 一
三五七三	(武鑑一件ニ付書状)	(文政二年カ) 卯三月二六日	天野民藏↓石河小二郎様	状 一
三五七四	(御加入可被成との御事申達候様御沙汰書付)	(文化・文政)	側見亘理↓杉山作左衛門様	状 一
三五七五	(別冊武鑑一件ニ付書状) *紙継ぎはがれ。	(文化一四年カ) 丑三月二日		状 一
三五七六	(武鑑一件ニ付諸書状写) *紙継ぎはがれ。森弥一郎と小塚斎右衛門の往復書簡などの写しをまとめたもの。	(文化・文政) 二月二〇(二九日)		状 一
三五七七	(武鑑一件ニ付御出会之旨書付) *三五七七(三五七三)の紙継りとも。	(文化・文政)		状 一
三五七八	(武鑑御加入御差止ニいたし候様被仰出候ニ付書状写) *紙継ぎはがれ。端裏に「写」と記載あり。	(文政二年カ) 四月二日	御用人連名↓天野民藏殿	状 一
三五七九	(志水様・渡辺様御留守居へ遣候手紙案ニ付書状) *紙継ぎはがれ。	(文化・文政) 一〇月五日	渡辺人大夫↓石河小二郎様	状 一

三五七二〇 (別冊武鑑御加入御断出来ニ付書状)

(文化・文政)  
正月

\*紙継ぎはがれ。

三五七二三 (武鑑一件ニ付書状)

(文化・文政)  
四月二六日

天野民蔵↓石河小二郎様

状 一

三五七三三 (武鑑一件ニ付書状)

(文化一四年カ)  
三月朔日

側見亘理↓杉山作左衛門殿他三名

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五七三三 (出雲寺へ差出候武鑑調書ニ付書状)

(文化一四年カ)  
丑二月六日

側見亘理↓杉山作左衛門殿他三名

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五七三四 (武鑑一件ニ付書状)

(文政三年カ)  
辰二月二日

天野喜六↓石河小二郎殿他一名

状 一

\*紙継ぎはがれ。端裏に「辰十二月十一日下ス武鑑一件ニ付喜六へ懸合之下案本返報也」と記載されている。

三五七三五 (武鑑一件ニ付書状)

(文政三年カ)  
二月六日

天野喜六↓石河小二郎殿他一名

状 二

\*紙継ぎはがれ。「覚(別冊武鑑蔵板御手当金ニ付)」を巻き込んでいる。

三五七三六 (武鑑一件ニ付書状)

(文政二年)  
卯閏四月二六日

天野民蔵↓石河小二郎殿他三名

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五七三七 (武鑑一件ニ付書状)

(文化・文政)  
二月六日

天野喜六↓門田善蔵様

状 一

三五七三六 (武鑑一件ニ付書状)

(文化・文政)  
二月二日

天野喜六↓門田善蔵様

状 一

\*紙継ぎはがれ。

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五七九 (武鑑一件ニ付書状)

(文化・文政)  
二月六日

天野喜六↓門田善蔵様

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三五八〇 (此度之訴状手渡相成引とり候事ニ付書付)

(幕末)二月一日

(徳川慶恕)↓月番江

状 一

\*三五八一、三五八二の紙継りとも。封紙とも。封紙に「石河佐渡守方江」と記載あり。

三五八二 (石川出羽守三男竹三郎養子入ニ付書拔)

(享保九年〜同一〇年)

状 一

\*紙継ぎはがれ。端裏に「書拔」と記載あり。石川出羽守は四代正章のこと。

三五八三 (渡辺半蔵儀本多丹後守殿養女与縁組ニ付諸事留)

(宝暦期)

状 一

\*渡辺半蔵は綱通(綱道)で万石以上年寄、本多丹後守は伊勢神戸藩主の本多忠永のこと。紙継ぎはがれ。破損大のため取扱注意。

三五八四 (御つほ戴く御礼其外近況ニ付書状)

(年不詳)八月二日

清祥院↓石河光晃様

状 一

\*包紙とも。包紙に「八月十二日喜内持参 同十四日認御請十五日使相済」と記載されている。紙継ぎはがれ。

三五八五 (一昨便ニ申来候訴訟一覽ニ付書付)

(幕末)

(徳川慶恕)↓月番江

状 一

\*包紙とも。包紙に「書付」と記載あり。

三五八六 代々御役儀勤年数覚

(承応元年〜文化二年)

状 一

\*承応元年から文化二年まで、石河正光から石河光壽までの年寄役勤務年数を記したものの。

三五八七 (成瀬小吉江朽木大炊頭殿妹縁組之儀ニ付書拔)

安永八亥年

状 一

\*成瀬・朽木両家の婚姻の儀に関する書付の写し。端裏に「書拔」と記載あり。

三五八八 (御用状切紙認方之儀ニ付書付)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。虫損大。取扱注意。

三五八九 (竹腰志摩守儀養子願書書拔)

寛保元酉年四月

竹腰志摩守(正武)判  
↓松平左近将監(乗邑)殿他二名

状 一

\*端裏に「書拔」と記載あり。

三五九〇 (御提重・御弁当献立)

(江戸)

状 一

\*端裏に「御弁当」と記載あり。

三五八二 (竹腰山城守嫡子同姓壹岐守江脇坂中務少輔妹 宝曆五亥年二(三)三月

縁組之儀ニ付書拔)

\*竹腰山城守は正武、壹岐守は勝紀、脇坂中務少輔は龍野藩主の脇坂安弘のこと。端裏に「書拔」と記載あり。

三五九 (紙繕り) (江戸)

\*三六〇(三五九)人の紙繕り。紙繕りに「書付七」と記載されている。

三六〇 (御役儀御勤不被成節夫銀・路銀・御扶持渡り方書付) (江戸)

三六一 (御国御座之御用其外品々帳面書拔・覚書・書状等書上) (江戸)

三六二 (三之丸御宮・御靈屋拜礼席之儀ニ付書付写) 文化二二亥九月 (石河) ↓渡辺半蔵様

\*端裏に「文化二二亥九月書拔」と記載あり。三之丸御宮は名古屋城三之丸の東照宮のこと。

三六三 (町方儉約触之儀ニ付書状) (江戸) 二月一八日 信濃屋孫介 ↓近藤為三郎様

三六四 (御復書拜見ニ付書状) (江戸) 二月二六日 太郎衛門 ↓(石河) 太八郎様

三五五 (文化十二年より文政八年迄) (江戸)

御在府・御在尾年并御供御年寄名前書付)

\*紙継ぎはがれ。

三五六 (御年寄衆御定之路銀并壹万石之扶銀相渡之儀ニ付書付) (江戸) ↓石河伊賀守殿

\*紙継ぎはがれ。

三五七 (御用文通之節様文字ニ改り候ニ付書付) (江戸)

三五八 (今度乗馬御覧ニ付書付写) (江戸)

\*端裏に「乗馬御覧之書付写」と記載あり。

三五九 (日次覚) (江戸)

\*御年寄の出勤などを書き付けたもの。

三六〇 (江戸表并京都江相詰候輩夫銀・路銀・御扶持方其外之儀ニ付書付) (江戸) 寅一月

\*紙継ぎはがれ。

石河家文書目録(十一)

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三七二 (明倫堂江出席等作法之次第)

(江戸)四月

\*明倫堂は尾張藩の藩校。

三七三 (武家諸法度写)

天保九年二月二日

\*十二代將軍徳川家慶が公布したもの。

三七三 (寛政九巳年御儉約被仰出候節各役所取扱方之義ニ付書付)

寛政一一未年  
十一月二三日

↓両役・立合役江

三七四 御用人差出候断書写(御成之儀ニ付)

(江戸)

三七五 (路銀・夫銀・御扶持渡方ニ付書付)

(江戸)

\*紙継ぎはがれ。

↓志水甲斐守殿

三七六 (武士之道ハ聖賢之教其外書付)

(江戸)二月二日

\*紙継ぎはがれ。前欠か。包紙に「伊予守様御手紙切抜」と記載あり。

三七七 (三之丸御宮江御年寄衆御名代之次第)

(江戸)三月二七日

\*端裏に「三月十七日御用人迄問合候処遠山彦左衛門を指越御宮御代拜之次第」と記載されている。御宮は名古屋城三之丸の東照宮のこと。

遠山彦左衛門↓

三七八 (月番差支候節介之儀月番当り前月之者相勤候ニ付書付)

文化一〇酉一〇月二二日

三七九 (御旅館江着・立等之儀ニ付書付)

(江戸)

\*紙継りとも。

三七九二 覚(御旅館着・立・休之儀ニ付寛)

(江戸)二月

三八〇 (同姓初治郎御目見ニ付)

(江戸中期)正月

御前江月番御年寄衆より御渡之書付案)

\*紙継りとも。端裏に「案」と記載あり。初次郎は七代光籌の養子となった光豊のこと。

三八〇二 (同姓初治郎御目見之儀ニ付書状)

(江戸中期)正月

\*三八〇一・三八〇三の紙継りとも。

石河伊賀守(光籌)↓

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

三六〇三 (同姓太郎八悴初治郎儀実娘聚合ニ付書状) (江戸中期)正月二五日 ↓石河伊賀守(光籌) 状

三六〇四 (御機嫌為伺登城之定日書付案文) (江戸) 状

\*紙継ぎはがれ。

三六〇五 安永九年子二月朔日新規御目見相済候節之留ノ書拔 安永九年二月朔日 状

\*月番年寄衆及び御用人衆より石河伊賀守(光籌)への書付の写し。紙継ぎはがれ。下ケ札あり。

三六一 御供揃方心得之書付 (江戸)未六月 状

\*三六一〜三六二の紙継り三点とも。

三六一 今般被仰出候趣(御近火之節心得) (江戸)未六月 状

\*紙継ぎはがれ。下ケ札あり。

三六一三 (戸山御屋敷御近火之節老中心得書付) (江戸)西四月 状

三六一四 町並ニ罷在候浪人并医師引受候輩格式 (江戸)巳一〇月 状

\*下ケ札あり、下ケ札は本紙から剝離、糊はがれあり。

三六二一 (和宮様内親王宣下ニ付書付) (文久元年)四月一〇日 状

\*三六一〜三六二の紙継りとも。

三六二二 (三月二十八日御能組) (江戸)三月二八日 状

三六二三 (四月五日御移徒相済候為御祝儀被仰付候御能組) (江戸)四月五日 状

\*紙継ぎはがれ。

三六三 (年寄御勤其外日次記) (江戸)(四月)一七日、五月二日 状

\*紙継ぎはがれ。

三六四 (村高帳民部省江至急御差出之儀ニ付廻草写) (明治初年)一〇月四日 状

\*端裏に「写」と記載あり。

名古屋藩中川庄吉  
↓山村甚兵衛様・御名様 他二名

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九五 (触書一通進之候儀ニ付書状)

(慶応四年カ)  
閏四月一日

林又左衛門↓石河太八郎様

状 一

三五六 御伺日並

(年未詳)

状 一

三六七 (明日御茶被下置候儀ニ付書状案文)

(江戸)二月五日

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三三八 (元禄十四巳年及享保十一年御留守状留之内書拔)

(元禄)享保

状 一

\*虫損により部分的に紙継ぎはがれがある。

三三九 (三月十二日枇杷嶋出水ニ付  
彼地江太八郎様御越之節之書付)

(江戸)三月二日

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三三〇 (年寄中供人数書付)

(江戸)

状 一

\*紙縫りとも。下ヶ札あり。

三三一 (拙者同心市川六郎左衛門他二名新知・加増之儀ニ付書状)

(延享元年)二月二六日

竹腰志摩守(正武)  
↓石河伊賀守(光當)様他二名

状 一

\*紙縫りとも。市川六郎左衛門は近長のこと。

三三二 (御小納戸関又右衛門御茶被下置間可罷出儀ニ付書付)

寛延元辰二月四日

状 一

三三三 (御在國中御法事有之節月番之儀ニ付書付)

(江戸)

状 一

\*端裏に「覚書」と記載あり。

三三四 (同心荒川三左衛門娘養女ニ遣度儀ニ付書付)

寛延三年孟秋

状 一

三三五 口上之覚(当院末寺濃州植野村蓮花寺法流之事)

(寛文六年以降)西四月

大須宝生院

状 一

三三六 (御家督等之御用向骨折相勤候ニ付  
石河太八郎拝領物之儀書付)

(弘化二年)二月(二九日)

状 一

\*付紙二点あり(剝離)。付紙には「弘化二巳年十二月廿九日」「出羽守殿」と記載あり。石河太八郎は八代光茂のこと。

三九二七 (伊賀守与相改申度儀ニ付何書) (江戸)二月 石河太八郎↓ 状

\*付紙あり(剝離)。

三九二八 (出羽守・権十郎時服拝領之節着座次第) (江戸) 状

\*紙継ぎはがれあり。着座位置を示す席図あり。付箋五枚あり(剝離)。

三九二九 松平出羽守殿行列(書) (江戸) 状

\*三九二九〜三九四四を括っていた紙紐とも。紙継ぎはがれ。「同勢ノ三千人余」の行列書。

三九三〇 熊五郎様山王江御宮参御行列(書) (宝暦五年三月) 状

\*熊五郎は九代徳川宗睦の長男治休の幼名。紙継ぎはがれあり。虫損のため一部開封不能。巻頭に朱書で「三月十一日巳刻出御、帰御之節四谷御屋敷江御立寄」と記載あり。

三九三三 (御祭礼行列書) (江戸) 状

\*端裏に「御祭礼行列順書」と記載あり。一部剝離箇所あり。

三九三四 (行列絵図) (江戸) 状

\*紙継ぎはがれあり。行列の様子が簡略な絵で描かれた巻紙。先頭の方の人物に「長屋善兵衛」と記される。

三九三二 御留守居廻状之写 (宝暦三年)八月二九日 縦

〜九月五日

\*三九三二〜三九三三を結っていた紙継りとも。「若君様」(十代将軍徳川家治の嫡男家基)への御目見、九月二日の紅葉山及山王社への宮参りに関する通達の写し。

三九三三 若君様御宮参一卷 (宝暦一三末年九月六日) 横

\*包紙とも。包紙に「宝暦十三末年九月六日若君様御宮参御次第并御行列」と記載あり。

三九四一 (行列書) (江戸) 状

\*三九四一〜三九四二を括っていた紙紐とも。「大炮」「打方」「背負御筒」などの行列構成が記される。

三九四二 (行列書) (江戸) 状

\*「御徒目付」「馬乗物見役」などの行列構成が記される。

三九四三 (火事之節御行列書) (江戸) 状

\*三九四三〜三九四五を括っていた紙紐とも。端裏に「火事之節御行列」と記載あり。

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五四十三 (御道中火事御行列書)

(江戸)

状 一

\* 端裏に「御道中火事御行列」と記載あり。

三五四十三 (包紙)

(江戸)

包紙 二

\* 三五四十四・三五四十五の包紙。うち一つの包紙に「火事御行列二通り」と上書きあり。

三五四十四 (火事之節御行列書)

(江戸)

状 一

\* 端裏に「火事之節御行列」と記された付箋あり。

三五四十五 (御子様方御近火御行列書)

(江戸)

状 一

\* 端裏に「御子様方御近火御行列」と記された付箋あり。虫損のため一部開封不能。

三五五十一 (行列書)

(江戸)

状 一

\* 三五五十一・三五五十二を括っていた紙紐とも。「大馬印」や鉄砲組以下の行列構成が記される。「大馬印」稲葉助左衛門・松本清左衛門、「小頭」高木求馬・戸川勝之助・小出健治・鈴木志津馬などの人名が見られる。

三五五十二 (織田遠江守京都江之御支行列絵図)

(明和四〜九年)

状 一

\* 織田遠江守は尾張藩の年寄を勤めた貞辰のこと。

三五五十三 (高田馬場穴八幡神事流鏑馬二付書付)

(宝暦元年)未五月一五日

状 一

\* 紙継ぎはがれ、付箋剝離箇所複数あり、取扱注意。九代将軍徳川家重の前厄祈願のための流鏑馬について記されたもの。

三五五四 (恭姫様御上京御行列書)

(宝暦二三年)

状 一

\* 紙継ぎはがれ。端裏に「恭姫様御上京御行列」と記載あり。恭姫(光相院)は八代徳川宗勝の子女、九条道前との婚姻のため宝暦一三年八月九日に上京(二九日に婚姻)。

三五五五 (七月廿日御城帳書抜(水野和泉守殿宅江申達御書付之写)

(享保八〜一六年)七月二〇日

状 一

\* 下ヶ札あり。端裏に朱書で「一」と記載あり。水野和泉守は老中水野忠之のこと。

三五五六 (大御目付鈴木飛驒守殿諸向江被相通候付御城附共為心得見せ被申候書付之写)

(享保一六年)

状 一

(大納言様御結納之御祝儀二付)

(大納言様御結納之御祝儀二付)

池田新右衛門

\*大納言様はのちの九代將軍徳川家重のこと。

三五五七 岡部美濃守殿遠州相良城請取之節道中行列書荒増 (天明七年) 状 一

\*紙継ぎはがれ。岡部美濃守は岸和田藩主岡部長備のこと。田沼意次の失脚に伴う天明七年一〇月一五日の相良城請取に関するものカ。

三五五八 (御曲輪内外所々出火之節勤方心得書) (寛延元年七月) 状 一

同二年三月)

三五五九 (行列書) (江戸) 状 一

\*付箋あり。

三五六〇 (諸道具書付) (年末詳)二月朔日 状 一

\*曇目・厨子・小袖簞笥等の書付。「初日」・「二日目」・「三日目」に分けて記される。

三五六一 (括り紐) 紙紐り 一

\*三五六一～三五六三の括り紐。端に「書付廿七」と記載あり。

三五六二 十年一月三十一日暁出立ニ而 (明治一〇年一月三日～二月七日) 状 一

駒塚表の岐阜表迄江之旅費之記

\*紙継りとも。

三五六三 (於政秀寺御回向ニ付御両殿様御名代之儀ニ付書状) (明治一〇年)一〇月一七日 美濃駒塚村 秋元秀尹 状 三

↓名古屋伊勢町二丁目 飯沼長行殿

\*封筒あり。関連文書二通あり。

三五六四 (今井田江月届差出事・小出別紙家督願之事他書付) (明治)二月九日 状 一

三五六五 (河本房輝東京出立ニ付書状) (明治)八月六日 秋元秀尹↓飯沼長行殿 状 一

三五六六 (竹次郎様江御祝儀申上被成度折柄 (明治)七月二日 秋元秀尹↓飯沼長行殿 状 一

并河本八衛吹拵ニ而心配いたし候儀ニ付書状)

三五六七 (別紙御布達廻達いたし候添状) (明治)二月二四日 秋元秀尹↓飯沼長行殿 状 一

三五六八 (金録証券調印指出ニ付書状) (明治)二月二五日 (秋元)秀尹押↓(飯沼)長行殿 状 一

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九六〇九 (送籍并年齢尋之事其外書付)

(明治)

状 一

三九六一〇 (別紙御布達雛形他三枚郵送ニ付添状)

(明治)二月三日

(秋元)秀尹(印)↓飯沼長行殿

状 一

三九六一二 (瀧川連弟忠一養子之儀ニ付書状)

(明治九年)二月一八日

堀幸信↓飯沼長行殿

状 一

\*瀧川忠は嘉永五年九月二〇日生れ。

三九六二三 (金録領知証相廻申候儀ニ付書状)

(明治)二月

取締戸長↓松井忠惇殿 他六名

状 一

三九六三三 (皇大神宮御札御渡之儀ニ付書状)

(明治)二月二日

取締戸長↓河本久造殿 他七名

状 一

\*包紙に「廻幣戸長取締」と記載あり。本紙は袖が包紙に糊付けされている。

三九六三四 (秋元鋼三郎送籍之儀ニ付書状)

(明治)九年九月八日・  
同二月六日

大雄院輝岳↓飯沼長行様

縦 一

\*綴り紐がとれている。

三九六四五 (故従三位命御霊社建築等ニ付献金)

明治九年

↓志水忠平殿 他二名

状 一

\*雛形。故従三位とは十六代徳川義宜のこと。

三九六四六 送籍証(秋元鋼三郎送籍証)

明治九年八月

右区士族取締 清水裕(印)他  
↓京都府下山城国葛野郡  
第三区花園村 戸長御中

状 一

\*付箋あり。

三九六七二 記(金拾壹円借用証文)

(明治)三年午三月

状 一

\*紙縫りとも。

三九六七三 (金春故八左エ門追善能番組)

明治一年六月

状 一

\*冒頭に「於名古屋広井并桁町大野邸内」と記載あり。本文は活字印刷されている。

三九六七三 (御尊母様少々御不快其外之儀ニ付書状)

(明治)一〇月六日

浅井政紀(カ)↓飯沼様

状 一

三九六七四 (松原より奉願候一条ニ付書状案文)

(明治)

御名御印

状 一

三九六二七五 (私御恩借之儀ニ付書状)

(年未詳)

状 一

\* 後欠。

三九六二七六 書拔(金十五円五十式錢借用ニ付)

(明治)

状 一

三九六二七七 (市川氏江御下渡利子ニ付書状)

(明治) 二年五月二五日

杉山鎗吉↓飯沼長行様

状 一

\* 書状裏に「十一年五月卅日鍋屋町裏吉兵衛与申者持参、鎗吉江竹ヶ鼻ニ面会詔へ越候趣申聞候也」と記載あり。

三九六二七八 (和歌書付)

(年未詳)

状 一

\* 二首を記載。

三九六二七九 (理馬吉弟妹送籍及御恩借金返上之儀ニ付書状)

(明治) 八月二九日夕

秋元秀尹↓飯沼長行殿

状 一

\* 封筒あり。

三九六二八〇 (包紙)

(明治九年)

包紙 一

\* 三九六二八一〜三九六二八四の包紙。表に「尾張国名古屋伊勢町式丁目飯沼長行殿 京都府下花園村大雄院 至急、裏に「城州葛野郡第三区」と記載あり。

三九六二八一 送籍証(秋元鋼三郎送籍証案文)

明治九年 二月

縦 一

各村戸長・士族取締  
↓京都府下山城国葛野郡  
第三区花園村戸長 大八木伝右衛門殿

三九六二八二 (鋼三郎送籍之儀ニ付書状)

(明治) 二月二日

縦 一

三九六二八三 (送籍ニ付郵便会所へ差出候手紙之儀ニ付書状)

(明治九年) 二月二日

状 一

山城国葛野郡第三区花園村大雄院住職  
釋輝岳(印)↓上 飯沼長行殿

三九六二八四 (銀行支店之儀ニ付書状)

(明治) 二月二三日

状 一

\* 三九六二八五〜三九六二八七を括っていた紙綴りとも。

三九六二八五 (美濃国一ヶ国銀行支店発行之儀ニ付書状)

(明治) 二月一六日

状 一

秋元秀尹↓飯沼長行殿

三九六二八六 (長栄講及国律銀行之儀ニ付書状)

(明治) 二月五日朝早天

状 一

河野富行他一名↓飯沼様他二名

三九六二八七 (銀行支店之儀ニ付書状)

(明治) 二月一九日

状 一

\* 封筒あり。

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九六二〇一 (今般御簡略被仰出候ニ付御家中衣服品

(江戸)卯閏七月

状 一

御目付衆指圖書付之写)

\* 三九六二〇一～三九六二〇七を括っていた紙縫りとも。端裏に朱書で「衣服品類書付」と記載あり。紙継ぎ一部はがれ。

三九六二〇二 (御在年御仲満様方御一統歳暮御祝儀割当名前書上)

宝暦三酉年～同七丑年

状 一

三九六二〇三 (在所御暇并出府之節之儀ニ付書)

(宝暦二年)

状 一

\* 端裏に「宝暦二年御目見之以後初而在在所御暇願之節並出府之上上物之事覚書」と記載あり。

三九六二〇四 (玄猪御祝御餅頂戴ニ付書付)

(江戸)

状 一

\* 尾張家における玄猪の式次第を記したものの。

三九六二〇五 宝暦六丙亥年正月十五日

宝暦六年正月一五日

横半 一

御鷹之雁之御料理被下置候節之次第覚書

\* 尾張家における御鷹之雁之御料理頂戴の次第を記したものの。

三九六二〇六 (評定所出座并登城無之日等書付)

(江戸)

状 一

三九六二〇七 (御城代野崎主殿他役職名前書付)

(延享二年以降)

状 一

三九六二〇八 (在所ニ而殺生之生鯉殿様江指上候ニ付書付)

宝暦四戌閏二月

状 一

三九六二〇九 (正月二日・三日御礼次第之儀ニ付書付)

(江戸)

状 一

\* 紙継ぎ一部はがれ。

三九六二一〇 (熊五郎様御誕生ニ付御能之儀ニ付覚)

(享保一八年以降)

状 一

\* 虫損大。熊五郎は九代徳川宗睦(享保一八年九月生れ)、または宗睦長男治休(宝暦三年一〇月生れ)のこと。

三九六二一一 (御使者被遣いたみ入其外ニ付書状)

(明和く文化)弥生二六日 (成瀬正典)↓(石河光籌)

状 一

\* 虫損大。紙継ぎはがれ。端裏に「石河太郎八様」、「成瀬民部少輔」と記載あり。

三九六二一二 (魚少々指上其外ニ付書状)

(明和く文化期) (成瀬正典)↓(石河光籌)

状 一

\* 虫損大、取扱注意。端裏に「石河太郎八様 成瀬民部少輔」と記載あり。

三九六二〇三(包紙)

(江戸)

包紙

\*三九六二〇四〜三九六二〇七の包紙、表に「御子様方御紋形御鎗形」と記載あり。

三九六二〇四(御子様方御紋形)

(江戸)

状

\*表に「上」と記載あり。

三九六二〇五(御末男様方殿与唱候様之儀及御家中輩途中会积品之儀ニ付書付)

宝暦二年五月

状

御家中輩途中会积品之儀ニ付書付)

\*端裏に「宝暦三四年」と記載あり。

三九六二〇六(御末男様方御出之節御家中之輩御会积并番人下座之儀ニ付書付)

(宝暦二年)四月一日

状

并番人下座之儀ニ付書付)

\*紙継ぎ一部はがれ。端裏に朱書で「未四月十五日御末男様方御出之節、御家中之輩途中ニ而不及御会积并所々番人下座有無之儀ニ付極書付写」と記載あり。

三九六二〇七(御子様方御鎗形)

(延享一〜宝暦三年)

状

\*亀也(八代徳川宗勝九男、竹腰勝起のこと)、直之丞(宗勝二男、井上正国のこと)、弥門様(宗勝二男、内藤頼多のこと)、政之丞様(宗勝三男、松平勝鷹のこと)の鎗形の図が描かれたもの。

三九六二〇八(市之瀬村新・東西横山村段木ニ付書付)

(江戸)一〇月

状

\*三九六二〇九〜三九六二一〇を括っていた紙紐とも。

三九六二〇九(二十一日之箱訴之儀ニ付書付)

(江戸)

状

三九六二一〇(伺書之儀ニ付書付)

(江戸)

状

\*紙継ぎ一部はがれ。封筒あり、表に「石河太八郎方江」と記載あり。端裏に「書付」と記載あり。

三九六二一一(白子風炉等代金ニ付書付)

(江戸)

状

\*紙継ぎはがれ。

三九六二一二(覚(金巻万式千四百式拾八両其外ニ付書付)

(江戸)午二月

状

三九六二一三(御祭礼ニ付御馬諸人用調)

天保一〇年亥九月

横

三九六二一四(御借財御仕払大方書抜)

天保八西〜同一二子年三月横

一

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九六三三八(諸侯名前石高書付)

(江戸)

状 一

\*三九六三二八～三九六三三〇を括っていた紙紐とも。「徳川内大臣光氏公」・「蘆田宮内少輔」・「遠藤越前守」などの名が見られるが、詳細は不明。

三九六三三九(未開封書状)

(江戸後期)

(石河太八郎)

状 一

\*包紙表に「石(河)太八郎様」・「御内密鏡嶋小兵衛」と記載あり。

三九六三三〇(諸国違作米価高直其外ニ付書状)

(江戸)九月四(カ)日

(竹腰山城守)↓(石河太八郎)

状 二

\*紙継ぎはがれ。表に「太八郎様貴酬山城守」と記載あり。包紙とも。他に書状一通あり(紙継ぎはがれあり)。

三九六三三二(六百五拾五石引高小割其外之儀ニ付問合書付)

(江戸)未四月二九日

状 一

\*三九六三二二～三九六三三三を括っていた紙紐とも。紙継ぎはがれ。端裏に「未四月廿九日渡辺源太左衛門様分御家老衆迄御問合書付之写」と記載あり。

三九六三三三(上下之御屋敷之儀ニ付返答書付)

(江戸)五月一八日

岡田与九郎 他一名↓内田善藏殿

状 一

\*三九六三二二と関連するものカ。

三九六三三三(米六百五拾五石引物惣高其外之儀ニ付返答書付)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。端裏に「写」と記載あり。三九六三二二・三九六三三三と関連するものカ。

三九六三三一(覚)御役米御差出其外之儀ニ付書付)

(江戸)

状 一

\*三九六三二二～三九六三三二を括っていた紙継りとも。

三九六三三二(覚)御上納金高書上)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。丑三月廿五日～寅三月廿五日上納分。

三九六三三一(尾張殿家来之内御附人之姓名)

(江戸)

状 一

\*三九六三二二～三九六三三二を括っていた紙紐とも。紙継ぎはがれ、取扱注意。虫損のため後半展開不能。端裏に「公義江御指出相成候御家中系譜目録書拔」と記載あり。

記載あり。

三九六三三二(元祖権現様江召出相働其以後平岩主計殿江御属シ)

(江戸)

状 一

同人卒去後源敬様江相働其以後代々相統之輩姓名)

\*紙継ぎはがれ、取扱注意。虫損のため後半展開不能。端裏に「公義江御指出ニ相成候御家中系譜目録書拔」と記載あり。

三九六四一 (包紙)

(江戸)

包紙 一

\*三九六四一～三九六四四の包紙。三九六四一～三九六七七を括っていた紙紐とも。包紙表に「式通」・「横井伊織之助二男蔵吉玉置へ養子」(朱書)と記載あり。  
横井蔵吉は明和元年に玉置直辰の養子となった時香のこと。

三九六四二 (横井蔵吉儀玉置長九郎名跡被仰付候儀ニ付書状)

(明和元年)二月二三日

竹腰近江守正厚(花押)

状 一

三九六四三 長九郎名跡願

(明和元年)申八月三日

竹腰兵部少輔正諛(花押)

状 一

\*長九郎は玉置直辰のこと。

三九六四四 (横井蔵吉儀玉置長九郎名跡被仰付候儀ニ付書状)

(明和元年)二月二三日

竹腰近江守正厚(花押)

状 一

三九六四五 (暑中御安否相伺度ニ付書状)

(安政四)万延元年  
六月二二日

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石(河)佐渡守(光晃)様 他四名

状 一

\*折紙。三九六五一～三九六五八を括っていた紙縫りとも。

三九六五二 (諸君益御安福等ニ付書状)

(安政四)以降  
孟陬(正月)二日

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石河佐渡守(光晃)様 他四名

状 一

\*包紙とも。

三九六五三 (御養君・御養女御用懸相動候ニ付時服拝領之儀ニ付書状)

(安政四)以降  
二月二六日

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石河佐渡守(光晃)様 他四名

状 一

\*折紙。包紙とも。

三九六五四 (暑中御安否相窺度ニ付書状)

(安政四)万延元年  
六月二二日

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石河佐渡守(光晃)様 他五名

状 一

\*折紙。

三九六五五 (暑中之御安否相窺度ニ付書状)

(安政四)以降  
六月念二(二二日)

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石河佐渡守(光晃)様 他四名

状 一

\*折紙。包紙とも。

三九六五六 (暑中御訊問ニ付書状)

(安政四)以降  
盆秋(七月)二二日

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石河佐州(光晃)様

状 一

\*折紙。包紙とも。

石河家文書目録(十一)

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九六二五七 (御本丸御普請ニ付御買上材御用相勤候ニ付  
時服拝領之儀書状)

(安政四年以降)  
二月二日

竹腰兵部少輔正諛(花押)  
↓石河佐渡守(光晃)様他四名

状 一

\*折紙。包紙とも。

三九六二五八 (暑中猶更御動静相窺度ニ付書状・同返札)

(安政四年以降)  
六月二三日

石河佐渡守光晃(花押)  
↓竹(腰)兵部少輔(正諛)様

状 一

\*折紙。朱書あり。包紙とも。

三九六二六一 付箋(御動座御差留之義御決定之事其外)

(幕末)寅六月三日

付箋 一

\*三九六二六一〜三九六二六四を括っていた紙縫りとも。

三九六二六二 (甲斐方被罷下従前大納言様御懇之御意之趣申聞ニ付書状)

(慶応元年以降)  
二月二日

津田太郎兵衛寛饒(花押)他一名  
↓成瀬隼人正(正肥)様他二名

状 一

\*折紙。包紙とも。甲斐は志水忠平、前大納言は十四代徳川慶勝のこと。

三九六二六三 (甲斐方被罷下前大納言様御直書持参被致候儀ニ付書状)

(慶応元年以降)  
二月二日

津田太郎兵衛  
↓成瀬隼人正(正肥)様他二名

状 一

\*包紙とも。

三九六二六四 (私ぎ道中無滞廿八日到着仕候ニ付書状)

(慶応元年以降)  
一〇月二日

志水甲斐忠平(花押)  
↓成瀬隼人正(正肥)様他二名

状 一

\*折紙。紙片あり。包紙二点とも。

三九六二七一 (御陣羽織等御軍装ニ付書付)

(幕末)

状 一

\*三九六二七一〜三九六二七七を括っていた紙縫りとも。

三九六二七二 (長州御所置之儀ニ付書付)

(元治元年)  
二月二日〜二七日

状 四

\*他に慶応二年の書状三点あり(紙継ぎはがれカ)。

三九六二七三 (芸州表江海陸出張割合書付)

(幕末)二月二日

状 一

三九六三七四 (井伊掃部頭・同兵部少輔御陣羽織被下 并軍目付割替其外ニ付書付) (幕末) 一月二五日～二月三日 状

\* 紙継ぎはがれ。

三九六三七五 (公方様御発駕・御旅館之儀ニ付書付) (慶応元年) 閏五月二日～六月六日 状

三九六三七六 (御築地御普請之儀ニ付書付) (慶応元年) 丑二月二九日 所司代衆↓尾張殿在京役江 状

三九六三七七 (大坂御定番仰付其外ニ付書付) (慶応元年) 一月 状

三九七〇一 (括り紐) (江戸) 紐

\* 三九七〇一～三九七〇八を括っていた紐、「書付一〇八」と記載あり。

三九七二二 (中寿老人之画其外随川甫信・幸信父子御好ニ而認有之ニ付書付) (宝暦二一巳年) 状

\* 随川甫信は狩野養朴(常信)の二男の狩野(松本・随川)峰信の子。文末に「宝暦十一巳年御表具出来」と記載あり。三九七二二～三九七二二を括っていた紙継りとも。

三九七二二 (出羽守様御哥・志摩守様御哥) (江戸) 状

三九七二三 (大矢田村医師長谷川立庵其外二名医師姓名書上) (江戸) 状

宝暦二二年午正月二五日

三九七二四 (御前御賀被遊御礼候節之御歌) (江戸) 状

\* 紙継ぎはがれ、途中脱落ありカ。竹腰山城守勝紀・石河伊賀守光當などの約二九首の和歌が記載されている。

三九七二五 (包紙) (江戸) 包紙

\* 表に「御名代之節用ル焼香」と記載あり。

三九七二六 (ふたうち山え御出御うた) (江戸) 状

\* 「御前」「岩岐守様」による三首を記載。

三九七二七 (和歌書付) (江戸) 状

\* 一首を記載。

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七二八 七夕へ梶の葉に歌を書手向る事

(江戸)

状 一

\*後欠カ。

三九七二九 (和歌書付)

(江戸)

状 一

\*一首を記載。歌題「祝」。

三九七三〇 (和歌書付)

(江戸)

状 一

\*一首を記載。歌題「小夜ねさめ」。

三九七三二 (包紙)

(江戸)

包紙 一

\*表に「御賀之詠草」と記載あり。

三九七三一 御詠十五首

(元文三年四月)

状 一

\*紙継ぎはがれ。虫損大、取扱注意。歌題「初春霞」「待花」など。三九七三一〜三九七三二を括っていた紐とも。

三九七三二 (和歌書付)

(享保〜安永)

状 一

\*石河光當などの和歌三七首を記載。端裏に「草書」と記載あり。

三九七三三 (和歌・漢詩書付)

(享保〜安永)

状 一

八月二五日

(石河)光當

\*紙継ぎはがれ。和歌・漢詩各一首を記載。

三九七三四 (開封不能文書)

(江戸)

状 一

\*虫損大、開封不能。

三九七三五 (寛延四年未ノ三月十三日御花見御歌)

寛延四年未ノ三月十三日

状 一

\*「御前御歌」三首その他一首を記載。

三九七三六 (和歌書付)

(江戸)

状 一

\*虫損大、後半開封不能。

三九七三七 (子五年奥御座之間并御内証御座之間ニ而御華見御歌)

(江戸)子五年

状 一

\*「御前」「御部屋様」「みを」「恒三郎」の和歌一首ずつ記載あり。

三九七三八 (和歌書付) (江戸) 状 一

\*虫損により後半開封不能。歌題「嶋夏草」。

三九七三九 (和歌案文) (江戸) 状 一

\*紙継ぎはがれ。虫損により後半開封不能。

三九七三〇 (和歌書付) (江戸) 状 一

\*紙継ぎはがれ。歌題「庭核」「糸桜」。

三九七三二 (和歌書付) (江戸) 状 一

\*虫損により後半開封不能。歌題「若草」「はつ桜」など。

三九七四一 (和歌書付) (江戸) 状 一

\*一四首を記載。三九七四一〜三九七四三を括っていた紙綴りとも。

三九七四二 (石河伊賀遺跡知行并屋敷相続之儀ニ付 伊賀守屋敷之留書抜) 享保一八五年八月二日 状 一

伊賀守屋敷之留書抜

\*端裏に朱書で「享保十八年八月廿二日伊賀守殿御屋敷之留」と記載あり。石河雅楽光當が兄伊賀忠喜の遺跡を相続するに伴い、光當名跡を市橋新内祥昌(石

河七郎右衛門と改名)が相続した際の申し渡ししを写し。

三九七四三 (石河七郎右衛門病身ニ付倅権平家督之儀書状案文) (宝暦五年)五月 石河伊賀守(光當)↓ 状 一

三九七四四 享保六丑年留書跡式留書抜 享保六丑年三月二四日 状 一

〜四月二七日

\*端裏に朱書で「享保六丑年留書跡式留書抜」と記載あり。石川出羽守正章が一〇〇〇石分の内証分けをしていた石川兵庫興則の死去に伴い、兵庫の家督

を出羽守次男の仙次郎(正茂・光當)が相続する際の願書・仰渡等をまとめたもの。

三九七四五 (石川出羽守次男仙次郎儀石川兵庫末期養子願ニ付書付) 享保六年四月 横 一

\*石川出羽守正章が一〇〇〇石分の内証分けをしていた石川兵庫興則の死去に伴い、兵庫の家督を出羽守次男の仙次郎(正茂・光當)が相続する際の願書を写したもの。

三九七四六 (尾州より到来之鴨拝受仕候儀其外ニ付書状) (江戸)二二日 上野彦次郎↓中東四郎様 状 一

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七四七 (石川兵庫名跡願之義二付石川出羽守ヨリ願仰達候書付)

享保六丑年四月

状一

\* 石川兵庫は興則、石川出羽守は正章のこと。

三九七四八 (和歌書付)

(江戸)

状一

\* 二首を記載。

三九七四九 (和歌書付)

(江戸) 巳四月七日

状一

\* 紙継ぎはがれ。名古屋から(カ)箱根に至る、鳴海・小夜中山など東海道の各所で詠んだ和歌が書かれたもの。

三九七五〇 (上江掛り候儀二付御状被遣候大格其外書札例)

(享保期カ)

状一

\* 端裏に「留誌」と記載あり。

三九七四二 (和歌書付)

(江戸)

状一

\* 途中、虫損により紙継ぎはがれかかっている箇所あり、取扱注意。鳴立沢ノ三保までの東海道の各所で詠んだ和歌二一首を記載したものを。

三九七四三 (和歌書付)

(江戸)

状一

\* 前欠。途中、虫損により紙継ぎはがれかかっている箇所あり、取扱注意。歌題「萩如錦」「女郎花」など。

三九七四三 御玄関江被仰付覚書

(江戸) 子六月

状一

\* 端裏に「留誌」と記載あり。「御返札之大格」についてまとめられたもの。下ヶ札あり。

三九七五一 奉上呈机下野詩并和歌

(江戸)

状一

\* 紙継ぎはがれ。三九七五一ノ三九七五二を括っていた紐とも。

武之

三九七五二 (和歌書付)

(江戸)

状一

\* 五首を記載。作者に「日光御門主御傳義章」の名あり。

三九七五三 (和歌書付)

(江戸)

状一

\* 六首を記載。歌題「花」「郭公」「月」ほか。

延良

三九七五四 (扶桑拾葉集筆写之儀二付書付)

(江戸)

状一

三九七五五 (和歌書付)

(江戸)

状一

\*紙継ぎはがれ。一二首を記載。歌題「初春月」「夕五月雨」ほか。

三九七五六 (和歌書付) (江戸)

\*二首を記載。歌題「朝雪」「この程の述懐」。

三九七五七 (和歌書付) (江戸)

\*折紙。一首を記載。

千賀氏著信

三九七五八 四季拾首 (江戸)

\*折紙。和歌一〇首を記載。歌題「早春霞」「山花」ほか。冒頭に「和歌所武者小路殿正二位大納言実陰卿、御点御門弟是誰」と記載あり。

三九七五九 (漢詩書付) (江戸)

\*紙継ぎはがれ。七言詩一首を記載。

三九七六〇 秋日詠山家月和歌 (享保一七〇明和五年)

\*端裏に「蔭涼院掛物ニ成瀬筆の懐紙懸侍るを写取」と記載あり。(成瀬)隼人正藤原正太

三九七六一 鈴木氏明雅詠草 (寛保三年以降) (鈴木明雅)

\*和歌九首を記載。歌題「待花」ほか。

三九七六二 和歌集 (江戸)

\*紙継ぎはがれ。和歌・俳諧など八首を写したもの。

三九七六三 (和歌書付) (江戸)

\*「清戸」にて詠んだ和歌五首を記載。

三九七六四 (辞世之句書付) 元文三年七月七日 幽山老

\*「元文三年七月七日卒齡七十二辞世」と記載あり。

三九七六五 (和歌其外書付) (江戸)

\*長良の鵜川宮にて詠んだ和歌二首などを記載。

三九七六六 (古歌書付) (江戸)

\*和歌三首を記載。

状 一 状 一 状 一 状 一 状 一 状 一 状 一

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七五七 (俳諧書付)

(江戸)

状 一

\* 一句を記載。冒頭に「円通寺」と記される。

三九七五八 奉捧上椿花并詩歌

(江戸)

武之

状 一

\* 漢詩・和歌各一首を記載。

三九七五九 (和歌書付)

(江戸)

奥古春他四名

状 一

\* 端裏に「ぎふにてよむ」と記載あり。六首を記載。歌題「初春」「歳暮」ほか。

三九七五〇 (包紙)

(江戸)

包紙 一

\* 三九七五三～三九七五三の包紙。

三九七五三 (知多郡大野村源六娘知法儀

(明和八年頃)

状 一

和歌を達者ニ仕候儀其外ニ付書状)

三九七五三 (知多郡大野浦へ御汐湯めさせ給ふ御供之節之儀ニ付書状)

(明和八年頃)

状 一

\* 紙継ぎ一部はがれ。和歌一首を記載。

三九七五三 (和歌四首并下句之儀ニ付書付)

(江戸)

状 一

\* 三九七五三～三九七五三を括っていた紐とも。

三九七五四 (美濃の国本巣郡曾井中島村明日焼土器古歌書付)

(江戸)

状 一

三九七五五 (和歌書付)

(江戸)

勝紀他二名

状 一

\* 虫損により紙継ぎ一部はがれ。六首を記載。勝紀は竹腰(彦岐守・山城守)勝紀のことカ。

三九七五六 (和歌書付)

(江戸)

状 一

\* 式子内親王・前中納言定家などによる一二首の和歌を写したのもの。

三九七五七 (和歌書付)

(江戸)

状 三

\* 虫損により上部欠損。二〇首を記載。

三九七五八 (和歌書付)

(江戸)

子正他一四名

状 一

\* 一五首を記載。歌題「早春霞」「柳風」ほか。包紙とも。包紙の表に「奉納詠歌写」と記載あり。

三九七六一 御雛巨細之記

(江戸)二月二十九日  
三月四日

横半

三九七六二 (孟事其外諸次第案文)

(江戸)

状

\* 「老女并其外之輩江御盆被下候次第」「御家老御目見の次第」についても記載される。

三九七六三 (万之丞様七月十三日御七夜御祝ニ付被下品之儀書付)

(江戸)七月十三日

横

三九七六四 (十二月朔日幸七郎様御下帯江為結其外ニ付書付)

(江戸)二月一日

状

\* 三九七六四、三九七六八を括っていた紐とも。幸七郎は八代石河光茂のことカ。

三九七六五 御貞様御宮参被遊候ニ付御内祝ひ調

(江戸)八月三日

状

三九七六六 (幸七郎様御上下被為召候御祝御兼合之御祝之儀ニ付書付)

(江戸後期)

状

\* 前欠。付箋二枚あり、うち一枚糊はがれ。紙継ぎがはがれやすくなっているため取扱注意。

三九七六七 御鉄漿初ニ付御祝之御品

(江戸)

状

三九七六八 (万之丞様御七夜之御祝ひニ付  
方々様江御赤飯被進候儀書付)

(江戸後期)

状

三九七六九 (妙寿院様其外へ於当様御縁組被相済候  
御祝儀申上候者共名前書上)

(江戸)

状

\* 紙継ぎはがれ。三九七六九、三九七七一を括っていた紐とも。

三九七六〇 辟瘟丹御服数々之覚

(江戸)

状

\* 紙片一枚とも。

三九七六一 覚(御雛三拾壹箱其外書付)

(江戸)

状

三九七六二 覚(御不断御夜具其外書上)

(江戸)

状

\* 紙継ぎはがれ。

三九七六三 音信贈答之定

(江戸)

状

\* 紙継ぎはがれ。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七六四 御答札之覚(於益様より因幡様江進物其外書上)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三九七六五 (兵庫様・かの子様其外よりの進物書付)

(江戸)

状 一

三九七六六 覚(横太龍紋二表仕立之儀ニ付書付)

(江戸)二月

状 一

\*三九七六一六〜三九七六二を括っていた紐とも。

三九七六七 (今日其御元へ入らせらる儀ニ付書状)

(江戸)

状 一

\*紙継ぎはがれ。

↓山城守様・御奥様

三九七六八 (小平太様へ御肴一折・貞光院様へ御赤飯二重其外書上)

(江戸)

状 一

三九七六九 (女性人名書上)

(江戸)

状 一

\*端裏書あり。

三九七六〇 (御部屋様々今日の御たより其外之儀ニ付書状)

(江戸)

状 一

三九七六一 (伊賀守様々御頂戴之儀ニ付書状)

(江戸)

状 一

三九七六二 (御側御伽其外名前書上)

(江戸)九月一日

状 一

三九七六三 (伊織様・小兵衛様江御養子御内やく  
整せ被申候節之御こたへ之留メ)

(江戸)亥二月二三日

状 一

\*紙継ぎはがれ。三九七六三〜三九七六二を括っていた紐とも。

三九七六四 (御部屋様より年始・暑寒御祝儀御奉文覚)

(江戸)丑五月

状 一

\*折紙。

三九七六五 (山城守様御奥様々お久殿へ被進書状案文)

(江戸)七月二日

状 一

\*紙継ぎはがれ。

三九七六六 (山城守様ノ御奥様々御祝ひ干鯛一折其外ニ付書状)

(江戸)三月二三日

状 一

\*紙継ぎはがれ。

うら尾↓高せ殿

三五七六七 (御年賀御いわい其外之儀ニ付書状)

(江戸) 子正月一五日

状 一

三五七六八 (日置おやしきへ紅梅咲候ニ付書状)

(江戸) 寅ノ年二月二日

状 一

\* 紙継ぎ一部はがれ。

三五七六九 (伊賀守殿御うかゝひ其外ニ付書状案文)

(江戸) 九月二日

うらを↓たかせ殿

状 一

三五七七〇 (和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「松添春色」。三五七七一、三五七七二を括っていた紐とも。

三五七七二 (和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「初鹿」。

三五七七三 (和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「旅行暁」。

三五七七四 (和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「嶺霞」。

三五七七五 (和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「早春雪」。

三五七七六 (和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「雨中鶯」。

三五七七七 (和歌書付)

(江戸)

伏山同心平岩寛藏他一名

状 一

\* 四首を記載。歌題「海村夕煙」「寄道祝」ほか。

三五七七八 (和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「隠恋」。

三五七七九 (和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「夜思花」。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七七一 詠三首和歌

(江戸)

直喬

状 一

\* 歌題「歳暮梅」「田家翁」ほか。

三九七七二 詠三首和歌

(江戸)

俊常

状 一

\* 歌題「歳暮梅」「田家翁」ほか。

三九七七三 (和歌書付)

(江戸)

状 一

\* 一〇首を記載。歌題「東西時雨」「落葉待風」ほか。

三九七七三 和歌五首詠

(江戸)

上幸滴

状 一

\* 歌題「鷹狩」「炭竈」ほか。

三九七七四 詠三首和歌

(江戸)

俊常

状 一

\* 歌題「孤嶋雪」「寄水祝」ほか。

三九七七五 (和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「松頭月」。

三九七七六 (和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「湊千鳥」。

三九七七七 詠三首和歌

(江戸)

直喬

状 一

\* 歌題「立春」「初鶯」。

三九七七八 詠五首和歌

(江戸)

上幸滴

状 一

\* 折紙。歌題「氷満池上」「暁更冬燈」ほか。

三九七七九 (和歌書付)

(江戸)

幸滴

状 一

\* 一首を記載。歌題「遠村」。

三九七七〇 (和歌書付)

(江戸)

状 一

\* 二首を記載。歌題「枯野眺望」「寒草処々」。

三九七七三 (和歌書付) (江戸)

\* 一首を記載。歌題「夏遠山雲」。

幸満

状 一

三九七七三 (和歌書付) (江戸)

\* 一首を記載。歌題「水辺夏草」。

幸満

状 一

三九七七三 詠五首和歌 (江戸)

\* 歌題「鷹狩」「炭竈」ほか。

俊常

状 一

三九七七四 (和歌書付) (江戸)

\* 五首を記載。歌題「笈上霜」「望遠帆」ほか。

直喬

状 一

三九七七五 (和歌書付) (江戸)

\* 一首を記載。歌題「瞿麦」。

幸満

状 一

三九七七六 和歌三首詠 (江戸)

\* 歌題「対月惜花」「古砌葦菜」ほか。

上幸満

状 一

三九七七七 詠三首和歌 (江戸)

\* 歌題「対月惜花」「古砌葦菜」ほか。

上直喬

状 一

三九七七六 (和歌書付) (江戸)

\* 一首を記載。歌題「早春雪」。

俊常

状 一

三九七七九 (和歌書付) (江戸)

\* 一首を記載。歌題「七夕月」。

幸満

状 一

三九七七〇 詠五首和歌 (江戸)

\* 歌題「蛙嶋苗代」「寄草馴恋」ほか。

上直喬

状 一

三九七七三 (和歌書付) (江戸)

\* 一首を記載。歌題「名所雪」。

状 一

番 号 表 題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七七三(和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「三月三日」。

三九七七三(和歌書付)

(江戸)

上俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「歳暮」。

三九七七四(和歌書付)

(江戸)

茂矩

状 一

\* 二首を記載。歌題「試筆」「歳暮」。

三九七七五(和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「湊千鳥」。

三九七七六(和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「落葉留網代」。

三九七七七(和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「嶺霞」。

三九七七六(和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「初雪」。

三九七七五(和歌書付)

(江戸)

親治

状 一

\* 一首を記載。歌題「初雪」。

三九七七四(和歌書付)

(江戸)

直喬

状 一

\* 一首を記載。歌題「社頭祝着」。

三九七七四(和歌書付)

(江戸)

俊常

状 一

\* 一首を記載。歌題「江水鳥」。

三九七七三(和歌書付)

(江戸)

幸満

状 一

\* 一首を記載。上部欠損のため歌題不詳。

三九七七三(和歌書付)

(江戸)

幸調

状 一

\* 一首を記載。歌題「野冬月」。

三九七七四 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「近恋」。

三九七七五 (和歌書付)

\* 折紙。詞書に「君の四十しを恐ながら賀し奉り之」と記載あり。

三九七七六 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「向埋火」。

三九七七七 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「浦鶴」。

三九七七八 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「野寺僧婦」。

三九七七九 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「寄露恋」。

三九七八〇 (和歌書付)

\* 折紙。三首を記載。詞書に「弥生中句大曾根御庭拝見被

三九七八一 (和歌書付)

\* 紙継ぎはがれ。一首を記載。歌題「富士」。

三九七八二 玄旨法印酒のとくの狂歌

\* 一二首を記載。

三九七八三 (和歌書付)

\* 二首を記載。詞書に「近衛様関白御辞退御内意九月三日、廿七日御辞退、同日二条様関白宣下、廿八日近衛様内覧如元宣下、右□別之義故七代已前之例ヲ以被仰付之」と記載あり。

三九七八四 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「篠霜」。

(江戸)

幸満

状

(江戸)

上幸満

状

(江戸)

幸満

状

(江戸)

直喬

状

(江戸)

幸満

状

(江戸)

直喬

状

(江戸) 弥生中句

堀田ぜかう

状

(江戸)

東園基長卿

状

(江戸)

状

(貞享) 元文

(近衛) 家久公 他一名

状

(江戸)

直喬

状

番号表題

番号	表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
三九七七五	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「躑躅」。	(江戸)	俊常	状 一
三九七七六	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「篠霰」。	(江戸)	俊常	状 一
三九七七七	詠五首和歌 * 歌題「水満池上」「暁更冬燈」ほか。	(江戸)	直喬	状 一
三九七七八	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「社頭祝着」。下部欠損。	(江戸)		状 一
三九七七九	(和歌書付) * 五首を記載。歌題「長河似帯」「閑中待暮」ほか。	(江戸)	直喬	状 一
三九七八〇	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「冬宝月」。	(江戸)	幸滴	状 一
三九七八一	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「湖亀」。	(江戸)	幸滴	状 一
三九七八二	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「蹴鞠」。	(江戸)	俊常	状 一
三九七八三	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「仏名」。	(江戸)	幸滴	状 一
三九七八四	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「枕浦岸」。	(江戸)	幸滴	状 一
三九七八五	(和歌書付) * 一首を記載。歌題「芦花似雪」。	(江戸)	幸滴	状 一

三九七七六 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「野外鷺」。

(江戸)

幸満

状

三九七七七 和歌三首詠

\* 歌題「孤嶋雪」「寄水祝」ほか。下部欠損。

(江戸)

上幸<sup>満</sup>

状

三九七七八 詠五首和歌

\* 歌題「鷹狩」「炭竈」ほか。

(江戸)

直喬

状

三九七七九 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「早梅」。

(江戸)

直喬

状

三九七八〇 (和歌書付)

\* 三首を記載。歌題「初雁」「八月十五夜」ほか。

(江戸)

幸満

状

三九七八一 (和歌書付)

\* 折紙。一首を記載。歌題「松契多春」。詞書に「御四十字を賀し奉れと題を下し侍りて」と記載あり。

(江戸)

上俊常

状

三九七八二 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「里竹」。

(江戸)

直喬

状

三九七八三 和哥五首詠

\* 歌題「筏上霜」「遠望帆」など。

(江戸)

上幸満

状

三九七八四 (和歌書付)

\* 折紙。八首を記載。歌題「掛橋朝霞」「小野瀑布」など。

(江戸)

状

三九七八五 (和歌書付)

\* 二首を記載。歌題「暮山紅葉」「残菊」。

(江戸)

上幸満

状

三九七八六 (和歌書付)

\* 一首を記載。歌題「重陽宴」。

(江戸)

状

三九七八七 和歌五首詠

\* 折紙。歌題「長河似帯」「閑中待暮」など。

(江戸)

上幸満

状

番号	題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
三九七七六	(和歌書付)	(江戸)	世茂子	状 一
	* 一首を記載。歌題「古郷雪」。包紙とも。包紙は一部破損、表書に「とも子」と記載あり。			
三九七七五	(仙台中将吉村卿・近衛家久公和歌書付)	享保一七年九月	(伊達吉村他一名)	状 一
三九七八〇	(和歌書付)	延享五戊辰正月		状 一
	* 虫損。二首を記載。歌題「寄松祝」およびその返歌。詞書に「松浜院様四十之御賀に詠しさ、け侍る」と記載あり。端裏に「詠艸之義御返し」と記載あり。			
三九七八一	(和歌草案)	(江戸)	幸滴	状 一
	* 一首を記載。歌題「逢増恋」。			
三九七八二	(和歌書付)	(江戸)		状 一
	* 折紙。六首を記載。歌題「歳暮」「試筆」ほか。			
三九七八三	(和歌書付)	(江戸)		状 一
	* 田家・多渡権現などで詠んだ五首を記載。			
三九七八四	(和歌書付)	(江戸)	直喬	状 一
	* 一首を記載。歌題「冬梅」。			
三九七八五	(和歌書付)	(江戸)	直喬	状 一
	* 一首を記載。歌題「仏名」。			
三九七八六	(和歌書付)	(江戸)		状 一
	* 二首を記載。歌題「炭竈」「近恋」。端裏に「いもとらや子詠哥也」と記載あり。			
三九七八七	(和歌書付)	(江戸)	幸滴	状 一
	* 六首を記載。歌題「初雁」ほか。			
三九七八八	(和歌書付)	(江戸)	俊常	状 一
	* 一首を記載。歌題「待花」。			
三九七八九	(和歌書付)	(江戸)	俊常	状 一

\* 五首を記載。歌題「長河似帯」「閑中待暮」ほか。

三九七七九〇（和歌書付）  
（江戸）

幸満

状  
一

\* 一首を記載。歌題「里竹」。

三九七七九一（和歌書付）  
（江戸）

幸満

状  
一

\* 一首を記載。歌題「早梅」。

三九七七九二（和歌書付）  
（江戸）

幸満

状  
二

\* 一つは一首を記載、歌題「初雪」。もう一つは二首を記載、詞書に「霜月中の六日御百日目にあたらせられしを」と記載あり。

三九七七九三 紀海眺望八景（和歌書付）  
（江戸）

幸満

状  
一

\* 八首を記載。歌題「雑賀晴嵐」「妹賀嶋夕照」など。

三九七七九四（和歌書付）  
（江戸）

上幸満

状  
一

\* 一首を記載。詞書に「卯月中の九日郭公を聞しに」と記載あり。

三九七七九五（和歌書付）  
（江戸）

直喬

状  
一

\* 一首を記載。歌題「待花」。

三九七七九六（和歌書付）  
（江戸）

俊常

状  
一

\* 一首を記載。歌題「野寺僧帰」。

三九七七九七（漢詩書付）  
（江戸）

俊常

状  
一

\* 高棟編『唐詩品彙』（一三九三年）収載の儲光義の五言絶句（西行一千里…）を写したものを。

三九七七九八（和歌書付）  
（江戸）

俊常

状  
一

\* 一首を記載。歌題「向埋火」。

三九七七九九（和歌書付）  
（江戸）

幸満

状  
一

\* 一首を記載。歌題「顕恋」。

三九七七八〇（和歌書付）  
（江戸）

直喬

状  
一

\* 一首を記載。歌題「水辺鶯」。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九七七一〇(和歌書付)

(江戸)

直齋

状一

\* 一首を記載。歌題「芦花似雪」。

三九七七一〇三詠五首和歌

(江戸)

俊常

状一

\* 一部紙継ぎはがれ。歌題「野残雪」「梅始開」ほか。

三九七七一〇三(和歌書付)

(江戸)

俊常

状一

\* 一首を記載。歌題「芦花似雪」。

三九七七一〇四(和歌書付)

(江戸)

俊常

状一

\* 一首を記載。歌題「松添春色」。

三九七七一〇五(和歌書付)

(江戸)

直齋

状一

\* 一首を記載。歌題「旅宿友」。

三九七七一〇六(包紙)

(江戸)

包紙一

\* 三九七七一〇七、三九七七一〇八の包紙。

三九七七一〇七(和歌書付)

(江戸)

里鶴女他一名

状一

\* 折紙。「幾年もかわらて咲よ京桜：」ほか四首を記載。

三九七七一〇八(和歌書付)

(江戸)

里鶴女他一名

状一

\* 一部紙継ぎはがれ。二〇首を記載。歌題「松下躑躅」「貴賤更衣」ほか。

三九七七一〇九(和歌書付)

(江戸)

俊常

状一

\* 一首を記載。歌題「里竹」。

三九七七一〇(和歌書付)

(江戸)

俊常

状一

\* 一首を記載。歌題「早梅」。

三九七七一(和歌書付)

(江戸)

俊常

状一

\* 一首を記載。歌題「仏名」。

三七七三(漢詩書付)

\* 後欠。二編(一編は部分)を記載。詩題「山上春興」(五言絶句)ほか。(江戸)

状

一

